

# 「空間認知能力スクリーニング検査」の作成にご協力ください

## はじめに

認知症や脳卒中による能力の低下を知るスクリーニング検査として、例えばMMSEやHDS-Rなどが知られておりますが、簡便な反面、臨床的な有効性の点でいくつかの不満が指摘されております。例えば、初期・軽度の認知障害の判別能が十分でない、言語に障害を有する場合に検査実施が困難である、認知度レベルを一次元的な尺度(得点)でしか表現しないため認知機能の障害を分析的に診断することができないなどです。また、これらの患者さんにしばしばみられる空間見当識の障害など空間認知能力の低下については、従来問診による判定が中心でした。そのため、より高い信頼性を持つ検査法が求められておりますが、いまだに十分な手法が確立しているとは言えません。こうした意味から、新たな空間認知能力スクリーニング検査を開発することは急務であり、臨床的にも大きな意義を持ちます。

## これまでの経緯と課題

私達のグループは、これまでに科学研究費をはじめとする研究助成金を得て、新たな空間認知課題の開発に取り組んで参りました。研究業績等につきましては

<http://www.edu.shiga-u.ac.jp/~watanabe/sub3.htm>

をご参照ください。

また、私達のグループが新たに開発した検査法は、

<http://www.edu.shiga-u.ac.jp/~watanabe/seeds2.pdf>

をご覧ください。これらは、①実施が比較的簡単であること、②反応時間と正答率に基づく信頼性が高いものであること、③脳部位と対応させて結果の解釈が可能であると思われることなどから、臨床面への応用が大いに期待できます。この新しい検査法を確立し、医学的有効性を示すとともに、高齢者のQOL(生活の質)との関連を明らかにすることが我々の研究目的です。

## 共同研究へのお誘い

今後研究を進めていくにあたりましては、本研究の意義をご理解いただき、ご示唆・ご協力をいただける共同研究者の存在が欠かせません。多くのデータを積み重ね、これを多様な観点から分析・検討することで、世の中に深く寄与することのできる意義のある研究が生まれるものと考えます。このため特に、医学的見地からともに新たな試みに挑戦していただける脳神経外科やリハビリテーション領域の先生を求めています。もちろん、心理学や工学領域の方々も歓迎です。

実際に分担いただく内容や範囲などにつきましては、直接お会いしてご相談させていただくつもりですので、まずは本研究の趣旨をご理解いただいた上で、下記までご連絡いただけますと幸いです。

**渡部雅之** 滋賀大学教育学部教授 博士(人間科学)  
〒520-0862 滋賀県大津市平津2-5-1 滋賀大学教育学部  
TEL & Fax: 077-537-7831 e-mail: [watanabe@sue.shiga-u.ac.jp](mailto:watanabe@sue.shiga-u.ac.jp)